

## 報恩講のおまいり

近年、報恩講（ほんこさん）についての認識が、全国的に低下しているのではと思えてなりません。以前は、お寺も家庭でも年に一度の大イベントでした。

報恩講とは親鸞聖人のご法事（新暦1月16日）を勤めさせていただく仏事です。これを「報恩講」と称するのは、聖人の曾孫である第三代門主・覚如上人が親鸞聖人三十三回忌のご法事にあたり、真宗教義の要を顕すため「報恩講私記」を作られてお勤めになったからです。

その要とは、「他力の救済を受ける実践は、救済法をそのままお聞かせいただき、救済法に対する報恩の行いのみ」だということ。それ以外の行は全て自力であり自分は救われないということ、聖人九十年のご生涯を通して貫かれたのでした。

聖人晩年のお言葉の中に「悪を好む人をば敬いて遠ざかれ」という言葉があります。この言葉の真意は、悪ということまで報恩感謝といただかれよ、というお示しだと言えます。私たちは自分にとって不都合なものを悪とし、排除しがちですが、それを「ありがとう、もったいない、すまんことやった」とひっくりかえしていくことが報恩の実践です。しかしその困難さを、阿弥陀如来の成り立ちが教えてくれるのではないのでしょうか。

覚如上人は「報恩講私記」で、『ここに祖師聖人の化導によって法蔵因位の本誓を聞く。歡喜胸に満ち渴仰肝に銘ず。しかればすなわち、報じても報ずべきは大悲の仏恩、謝しても謝すべきは師長の遺徳なり』と讃嘆されています。

法蔵菩薩時代の五劫兆載をかけたご苦勞は、我執でしか生きられぬこの私を救うためのものでした。「もしあなたを迷いの世界から悟りの世界へ生まれさせることができなければ、私は仏にならない」という「不取正覚」のお誓いが、「なんまんだぶつ」の六字名号となって今私に働いているのです。

これが阿弥陀様より賜っているお念仏です。阿弥陀様は、建立した西方極楽浄土で私の成仏をお待ち受けくださっています。このお救いによって、波乱に満ちた人生を生き抜かれ、膨大な著作でお示しくださったのが宗祖・親鸞聖人であります。（孝雄 引用「仏教家庭学校」）



福島子どもサマーキャンプ、やはり海水浴は最高盛り上がり！

わがころろ  
よければ  
往生すべしと  
おもふべからず

らず」と述べられます。この一連の文は、往生の要因について説きつつ、人間の本质について言及した深い言葉となっています。

そもそも仏教の伝統では、善業を積み上げ学問して賢くなり、日々精進してその継続による功德を、自身の往生の頼みとしました。例えば戒定慧の三学、六波羅蜜の修行、天台止観行などで、インド古来の生天思想同様、現世と来世の境界をつなぐ力を生前の善業に求めて、これらに一定の相関があると考えるわけです。

一方、浄土教においてはこの世で悟りの段階をあげるのではなく、極楽往生がテーマとなります。その行でも善因善果の思想が重視されてきましたが、法然上人・親鸞聖人の「往生行」では大きく異なる道をとりました。つまり自力の蓄積でなく、阿弥陀仏の本願力に則った念仏と信心、すなわち他力の信行であり、根本的な転換です。

それは、「わが心善くて」という最初の前提に対して、そもそも自分の心が善くあることはできない、と真摯に洞察されたからでしょう。果たして私たちは善くあり続けることが可能なのでしょうか。人の心の不確実性を深く見定めるとき「愚者になりて往生す」という念仏往生の道が定まるのです。（引用「心に響く言葉」）

◆聖人は笠間の門弟あてに答えられたお手紙で、自力・

他力の説明の後に「凡夫はもとより煩惱具足したる故に、わるきものとおもふべし。またわがころろよければ往生すべしとおもふべか

## お経って、見ても聞いてもチンプンカンプンですよ。

教えて、お坊さん

②⑩

日本の仏教経典は中国経由だからほぼ全て漢字なんだよ。お坊さんもやっぱり最初は書き下し文や現代語訳を読んだり、解説書によって勉強していかざるをえない。一般の方にも何だか申し訳ないけど、勤行として経典を読誦するのは、釈尊の言葉を暗唱・口伝で伝えてきた歴史があるからね。

ご門徒さんの中には、正信偈も阿弥陀経も一緒にお勤めして下さる方もおられる一方、家でのお参りとはおよそこんなもの、お坊さんが呪文みたく何かを念じている、祈っていることが供養だとか、習慣的に捉えられているほうが普通かもしれない。そこで漢文の意味がわからないと言われて、現代文で読経するお坊さんもおられるが、違和感あたり有り難く聞こえないとなったら困る。また、訳文や解説資料をお渡ししても関心持って読んでもらえるとも限らない。ちなみに、本願寺派では七五調の意識勤行「〇〇のうた」で意味合いを味わうことも一緒に唱和もできるので、お手元の勤行聖典を確認してほしい。

日本でもキリスト教会では聖書も賛美歌も日本語を使うし、皆が唱和する場面も多く、参加型の？儀礼として参考にしたいところだ。ただし、宗教は左脳の理解だけではない。教養としての勉強もとても面白いが、「なんまんだぶ」はその由来をよく信知することが大事。無学だった妙好人・讃岐の庄松さんが「そのお経が読めるんか？」と仲間からかわれて「ああ、読めるとも。ここにはな、『庄松、お前を助くるぞ、助くる』と書いてある」と言い返したという。このようなお味わいをいただけたら2500年伝わった意義もある。

## 親鸞聖人とその時代に関する年表

\* 平安末期から鎌倉時代へ社会が大転換の時期。政治の実権が貴族階級から武家へと移る争乱の中、災害も頻発して世の中は荒れ、末法思想（修行も悟りもなく教えしか残らない）が流行する。

《社会的できごと》	年	《親鸞、法然関連》
・平治の乱：平清盛勝利（武家の台頭）	1133	
	1141	・法然誕生（浄土宗開祖）
	1159	・栄西誕生（臨済宗開祖）
・安元の大火、鹿ヶ谷の陰謀（平氏打倒未遂）	1173	誕生 4/1 幼名：松若丸
・治承の大火：都 1/3 焼失	1177	4才 父・藤原有範没
・治承の辻風、源平の争乱（～5年）	1178	8才 母吉光女没
福原遷都（6-11月）	1180	9才 天台宗青蓮院にて出家：善信房範宴
	1181	比叡山にて堂僧などとして修行
・養和の大飢饉（～2年）：4万人死亡	1182	・恵信尼誕生（のちに妻）
平清盛病没（63）	1185	・大原問答（法然の名声高まる）
	1186	19才頃 求道に行き詰って大阪の聖徳太子廟
・元暦の大地震	1191	に参詣し、余命10年の夢告を受ける
壇ノ浦合戦：源義経水軍勝利、平氏滅亡	1192	・法然「選択本願念仏集」を著す
	1198	・道元誕生（曹洞宗開祖）
・鎌倉幕府成立：源頼朝征夷大將軍	1199	29才 比叡山で救われず、太子建立の京都六角堂に100カ日参籠、95日目に救世観音
・後鳥羽上皇院制	1200	の告命「行者宿報設女犯」「一切群生に説
・源頼朝急死（52）	1201	き」云々 法然門下へ：善信房綽空
・幕府が専修念仏を禁止	1205	33才 選択集と法然真影書写を許可：親鸞
・興福寺奏状、新古今和歌集	1207	35才 承元の法難 法然門下7名流罪、4名
・院宣により念仏停止	1209	死刑 越後へ遠流（法然は土佐へ）
	1211	37才 この頃結婚
・鴨長明「方丈記」を著す	1212	39才 赦免：愚禿親鸞、息子・信連坊誕生
・建保大地震：山崩れ地裂ける	1213	・法然没 1/25（80）
	1214	42才 上野国佐貫にて浄土三部経を千部読誦
・源実朝ら暗殺、北条氏執権政治	1215	発願するも、自力の行として中止
	1219	この頃常陸国へ
・承久の乱：幕府勝利、後鳥羽上皇流罪	1221	・日蓮誕生（法華宗開祖）
	1222	末娘・覚信尼誕生、この頃教行信証草稿本
・延暦寺訴えにより専修念仏停止	1224	58才 この頃より教行信証執筆？
・寛喜の大地震、異常気象（29年）	1228	59才 病臥、夢中に三部経中止を回想
・寛喜の大飢饉：1/3 餓死	1230	62才 この頃帰洛 翌年孫・如信誕生
	1231	・一遍誕生（時宗開祖）
・朝廷から専修念仏禁止	1234	70才 定禅による真影、この頃より和讃執筆
・後鳥羽上皇没（59）	1239	80才 常陸門弟に書状：造悪無碍の風儀制止
・仁治大地震、津波（41年）	1242	84才 息子・善鸞を義絶
・鎌倉大仏造営	1252	85才 一念多文意、正像末和讃などを著す
・鎌倉大洪水、赤斑病流行	1256	90才 弟の善法坊にて没 11/28
・正嘉大地震：神社仏閣全壊	1257	恵信尼没（89）、ひ孫・覚如誕生
	1262	墓を大谷から吉水に移し末娘覚信尼が留守
	1270	職として護持
	1273	大谷廟堂を寺院化し「本願寺」と号する
	1321	

\* 学問や貴族政権の色彩が強かった仏教も世俗化・腐敗する中、簡潔な教えを求めた祖師らが輩出。山を降り民衆に支持される鎌倉新仏教が成立していく。

## 福島子どもサマーキャンプ2019、保護者アンケートから

\*今年はいわき市郡山市などから21名の参加。終了後の感想では大変良かったようだ。事前アンケートには、当時の状況や子に対する親の願いがにじみ出ていた。一部を紹介。

・震災直後につわりが始まり、避難先で妊娠が発覚し、地元に戻ってから支援で相談に来てくださった医師に、どんな子が産まれてくるかわからないと言われ、精神的にどん底に追い込まれ、本当に不安や心配の中、胎教に悪い10ヶ月を過ごしてしまいました。でもお陰様で今の所健康そのものの元気な子に育ってくれています。

・震災の時、息子は生後10ヶ月でした。車で10分のところに海はあるのに、原発事故のせいで8年間海水浴に行けませんでした。庭は線量が高く、しばらく外で遊ばせてやることもできず、運動会は毎年室内でした。他県への移住も考えましたが、移住した知り合いからは、原発のせいでいじめにあっていると聞き怖くなりました。(中略)周りでは保養のことを知らない親もいます。もっと多くの子供に平等に保養の機会が与えられ、一人でも多くの福島っ子が笑顔になれるよう、私も保養の話を広めたいです。

・家族で放射線量を気にする生活を送っていましたが、学校に入るとそういう生活も表に出すこともできず、気にしているように見せずに生活しています。子供にもそういうこと気づかれないようにしないと学校で言うてしまうので、会話には気をつけています。普通に生活はできていて、問題は無いのですが、食べ物の産地にはいまだに気をつけています。

・震災から8年がたち、町の復興や経済格差の報道が目立つようになった気がします。変わらず、NHK天気予報の後に空間放射線量の値が放送されるのには違和感を感じなくなりました。(中略)原発のことは何も解決せず、また子供達が大人になった時に県外に出た時に福島出身の子と差別されないか不安があります。(中略)これからどのような場面に遭遇しても生まれ育った環境のせいにせず、生き抜く力を身につけてほしいと思います。

### 日々の「つぶやき」の中から…。

\*ツイッターを始めてから一年が経ちました。介護の現場での日々、感じることを百四十字でつぶやいています。今回は、中でも反響のあったものを載せさせていただきます。(C)

・介護施設で、働いていると、いろんな老後の形を見ることが出来る。

頻繁に面会がある人。家族がいてもだーれも来ない人。プレゼントが届く人。何年も同じタオルを使う人。

人生の一番の山場は、自分の事が自分で出来なくなってきたらだと思ふ。蒔いた種が育ち、刈り取る時。

・入居者の方がお一人亡くなった。

お葬式が終わり、ご挨拶に来られた息子さんが、

『介護士さんには、お世話になりました。みなさんは母の生活を見てくれただけでなく、僕たちの生活も守ってくれました。そういう大事な仕事だと伝えてほしい』  
そう言われ、涙が出てしまいました。